
過剰な昼寝

白虎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過剰な昼寝

【著者名】

Nマーク

N5689A

【作者名】

白虎

【あらすじ】

挙句、僕はなによりも昼寝が大好きです。

この世界のどこかで戦争が起ころっているとは思えないほど澄んだ青に、所々綿かもしくは綿飴か、世界の子供達の心のキャンパスのように真っ白な柔らかい雲が広がっている。

そんな天使達の広大な庭の下で、僕は意識の奥から睡魔と言つ邪悪な魔物がゆっくりと、まるで夜襲の兵士のように忍び寄つて来るのを感じた。言わばシックスセンスだ。

この悪魔との戦いは、自身に多大なダメージを負いかねない。以前の聖戦時には、僕のまぶたが緊急事態に陥つた。

まるで呪いでも掛けられたかのように田の下は闇に染まり、何の言う事も聞かなくなる程のダメージを負つてしまつたのだ。そのダメージのせいで僕は意識を失いかけ、悪魔の手によつて漆黒の闇の中へと引きずり込まれる寸前だつた。

悪魔は、一度闇へと引きずり込むと、僕に夢のような一時を味わわせる。時には地獄の俄鬼に身を裂かれるかのような悪夢によつて苦しめられ、時には盆と正月と誕生日とクリスマスと入学祝いと就職祝いと成人祝いと卒業祝いとボーナスが一緒に来るかのような幸せを体験させ、闇に僕をますます引き込もうとする。

そんな悪魔が、今一度僕の足を無限のアリ地獄へと引きずり込もうと掴んで離さない。

「くつ…またしても奴が僕の意識をその大きな鎌で刈り取ろうとしている布団敷こう」

そつ言つと、僕の一本の足はまるで互いに引かれ合つ恋人達のように、押し入れへと歩を進めた。もはや一寸の迷いも無かつた。

その瞳には、悪魔に見入られたせいでの輝きは見られず、まるで人形のように一点を見つめている。そして、洗脳でもされるかのよつて何の躊躇いもなく、押し入れから布団を引き抜いた。

その瞬間だった、六畳はあるうかといつこの部屋に敷き布団と言つ名の草原をめいっぱい広げたのだ。それは無常にもはかなく散る桜の花びらのようにふわりと落ちた。

僕はそれを見て笑つた。全てが僕の思い通りに動いている。そう思うと笑わずにいられなかつたのだ。今なら世界だつてそれそなう気がして来るけど枕を置いた。

準備は整つた。これから僕は邪惡なる化身との、先の見えない程長い長い戦いの一ページを飾りに行くのだ。世界は、僕が救うんだ！

「おやすみなさい」

(後書き)

久々に書いたのでいつもに増して短いですが、こんな感じの話はいかがでしょうか？（・_・^__^A

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5689a/>

過剰な昼寝

2010年11月2日09時51分発行